

糸魚川市公共施設等総合管理指針

個別計画

分類：図書館

第1 図書館

(生涯学習課)

平成31年2月

第1 図書館

1 施設一覧

(1) 施設総括表（平成30年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
図書館	3	0	0	1	1	1	0

※ 併設施設を除く。

(2) 施設の詳細（平成30年4月1日現在）

施設名称	代表所在地	建築年(経過年数)	延床面積 m ²	構造	階層
市民図書館	一の宮 1-2-3	1981 S56 (37)	1,565.00	RC造	3
能生図書館 (能生生涯学習センター内)	能生 1941-2	1975 S50(43) 2011 H23 (7) 改修	582.50	RC造	1
青海図書館 (青海総合文化会館内)	青海 4657-3	1996 H8 (22)	523.00	RC造	1
計			2,670.50		

※ RC造 鉄筋コンクリート造

2 現状と課題

(1) これまでの施設整備規模、配置状況

① 設置経過

市民図書館は、図書、記録その他必要な資料の収集、整理、保存をして一般の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的に昭和56年7月に設置した。

能生図書館は、平成7年4月に能生児童館2階に図書館として設置し、平成23年4月から現在の能生生涯学習センター1階に移転した。

青海図書館は、平成8年4月に青海総合文化会館内に設置した。

市民図書館は、平成12年に空調設備改修工事、平成24年度に耐震補強工事を実施したほか、小修繕を計画的に実施している。

能生図書館は、旧能生町庁舎を平成23年度に能生生涯学習センターとするための改修工事に併せて設置したため、その後の大規模修繕等は行っていない。

青海図書館は、平成8年度に設置して以来、大規模な修繕等は行っていない。

② 整備規模

それぞれ市町合併前からの設置経過があり、旧市町に1館として整備してきた。

規模は、結果的に合併時で概ね人口10,000人当たり500m²前後と共通している。

③ 配置状況

前述のとおり、旧市町に1館として配置したことから、能生、糸魚川、青海それぞれの地域ごとに1館を設置している。

なお、糸魚川地域の市民図書館は、当市の中央図書館としての機能を持っている。

(2) 利用状況

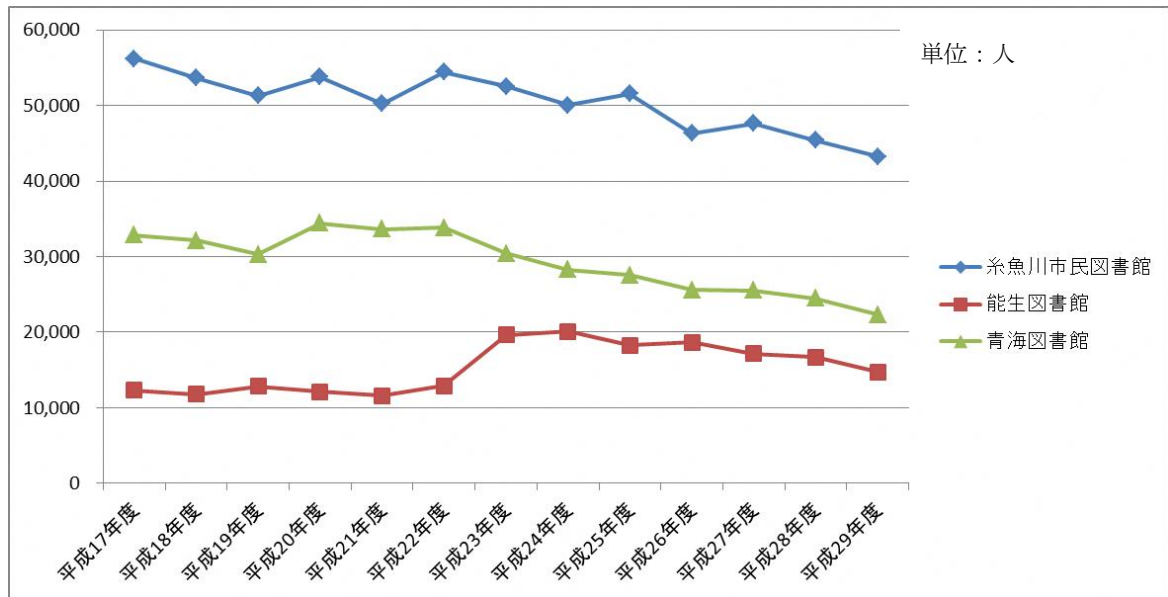
市民図書館、青海図書館の利用者数は、減少傾向にあり、能生図書館は、平成23年度のリニューアル効果があったものの、利用者数は微減傾向にある。

微減傾向は、人口減少に伴う要因と、全国的に進んでいる図書離れによるものが主であると分析する。

さらに市民図書館は、能生、青海図書館と異なり、図書館専用施設であるが、老朽化と閲覧コーナーの狭さなども利用者数が伸びない要因と考える。

利用状況

単位：人



単位：人

施設、地域別・人口、貸出利用者数推移								
施設、地域別	区分 / 年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
市民図書館	人口	28,730	28,363	27,993	27,577	27,090	26,807	
	貸出利用者数	39,712	40,045	37,628	38,625	36,186	32,932	
	人口一人当たり貸出利用者数	1.38	1.41	1.34	1.40	1.34	1.23	
能生図書館	人口	9,183	9,059	8,916	8,724	8,553	8,375	
	貸出利用者数	15,836	14,712	13,770	13,532	12,927	11,966	
	人口一人当たり貸出利用者数	1.72	1.62	1.54	1.55	1.51	1.43	
青海図書館	人口	8,838	8,722	8,584	8,468	8,318	8,170	
	貸出利用者数	23,435	22,991	21,323	21,564	20,873	18,768	
	人口一人当たり貸出利用者数	2.65	2.64	2.48	2.55	2.51	2.30	
糸魚川市全体	人口	46,751	46,144	45,493	44,769	43,961	43,352	
	貸出利用者数	78,983	77,748	72,721	73,721	69,986	63,666	
	人口一人当たり貸出利用回数(回)	1.69	1.68	1.60	1.65	1.59	1.47	
新潟県全体	人口一人当たり貸出利用回数(回)	1.25	1.27	1.35	1.34	1.34		

(3) 課題

単館である市民図書館は建物の老朽化が進んでおり、古い建物のためエレベーターをはじめとする改修には多額の費用を要すものと考えられる。

また、近年、読書だけでなく憩いの場としてのニーズがあり、内装の改修などを含めて施設の在り方自体を検討する時期に来ている。

能生図書館は、能生生涯学習センターに併設したことから、生涯学習講座と連携するなど複合施設の特性を生かした運営で、利用者の拡大が見込める。

青海図書館は、青海総合文化会館併設のため、ホールの来館者やホール利用者が気軽に立ち寄れる利点を生かした運営が特徴となっているが、その一方で3館共通事項として、閲覧スペース、蔵書冊数の増改に対応する書庫の確保などが課題となってきた。

施設運営については、経費やサービス面から、直営、業務委託、指定管理による比較検討が必要であるとともに、時代に合ったサービス提供についても検討を続ける必要がある。

また、新たな利用者の拡大と遠隔地の住民の読書機会の提供を図るなどソフト事業を強化するためには、人員配置を含めた検討が必要である。

3 分析と評価

(1) 総合管理指針による分析と評価

施設の設置目的に関しては、3館とも実情と合致しているが、利用者はやや減少している。適切な維持管理の点では、老朽化対策と3館体制の維持が課題となっている。

① 利用者数について

平成29年度の人口一人当たり貸出利用回数は、市民図書館1.23回、能生図書館1.43回、青海図書館2.30回で、3館の平均は1.47回である。(平成28年度の県内平均は1.34回)

② 運営について

図書館の運営について、平成29年度から行政改革推進項目として民間委託の可能性とサービス向上について調査検討している。

図書館業務は、ほとんどが人件費であるため、民間委託の方が社内管理費を要することから、経費上昇する結果となっている。

このことから、図書館運営については、サービスを落とさず市直営で経費節減に努めている。

(2) まちづくりとの関係

市民サークルや読み聞かせボランティア等の定期利用があり、間接的な関係がある。

また、閲覧コーナーに通う高齢者など、市民の居場所としての機能を有している。

(3) 利用者の動向

読書スタイルが、本からスマートフォンやタブレットなどの IT 機器に変わる中で、図書館に求められるニーズは、読書をしたり勉強したりする場所から、憩いの場所へと変わってきているが、全体の利用者数は、当面堅調に推移するものとする。

なお、学習室等については、学校の試験前や大学・高校入学試験前になると中高生の利用が多く、増える傾向にある。

単位：人

学習室等施設使用者の推移								
施設別	区分	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
市民図書館	学習室		5,269	4,698	4,222	4,881	4,892	5,201
	AVブース		2,035	1,642	921	584	520	491
	インターネット		1,086	1,102	1,042	896	862	801
能生図書館	学習室		1,330	1,348	1,173	970	1,065	1,073
	AVブース		1,097	845	586	544	553	303
	インターネット		1,177	673	1,206	1,281	1,189	611
青海図書館	学習室		2,604	2,514	2,476	2,270	2,089	2,100
	AVブース		751	896	551	433	374	313
	インターネット		691	398	367	452	412	244
糸魚川市全体	学習室		9,203	8,560	7,871	8,121	8,046	8,374
	AVブース		3,883	3,383	2,058	1,561	1,447	1,107
	インターネット		2,954	2,173	2,615	2,629	2,463	1,656

4 整備方針

(1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

市民図書館は、全市として1つ配置し、利用者の人口や市外からの利用者を考慮して、児童、生徒が利用しやすい学校周辺又は駅周辺に配置する必要がある。

現在の市民図書館は、読書以外の多用途利用を進めるだけの広さがなく、建物自体が老朽化しており、市民にとって今以上に魅力のある施設にするには限界を感じているが、耐震補強が完了し、鉄筋コンクリート造であることから、当面は現在の建物を使用しつつ、建て替えを視野に入れた将来の図書館の在り方を検討する。

建て替えの際は、効果的な集客の観点から、複合施設化の検討を第一とする。

能生・青海地域については、図書館を各1か所配置する。

(2) 整備に関する基本的考え方

市民図書館は、図書館機能だけではなく、子育て世代、児童・学生世代、ビジネス世代、高齢者世代などのあらゆる世代が気軽に立ち寄れる場所としての複合的な機能を有する施設として整備する。

青海図書館、能生図書館については、現在の施設を計画的に修繕することで長寿命化を図る。

(3) 運営に関する方針

図書館は、市民の生涯学習の推進に不可欠な施設であるため、適切な選書、また読書活動に関する事業の推進は行政の責務である。

一方、こどもから高齢者まで、読書や勉強だけでなく、憩いの場としての居場所となるような施設であることも望まれており、ノウハウのある民間活力の導入や先進事例なども検討しながら運営することとしている。

5 その他

本計画は、文部科学省が参照例示している社会教育施設等の個別施設計画である。

第2次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

図書館機能の充実

- ・利用者のニーズの把握に努めるとともに、新刊図書、郷土資料、新聞、雑誌などの資料を充実させ、さらに利用しやすい図書館づくりに取り組みます。
- ・子ども図書活動推進計画に基づき、家庭・学校等と連携し、読書環境の整備や啓発活動を行います。

6 平成31年度から平成40年度までの検討計画

単位：千円

スケジュール						
内容	H31	H32	H33	H34	H35	H36 ~ H40
修繕		電話交換システム更新 3,105	市民図書館エレベーター改修 21,500			

※上記の計画は、平成30年度における総合計画実施計画や予算編成等の調整前の検討資料である。